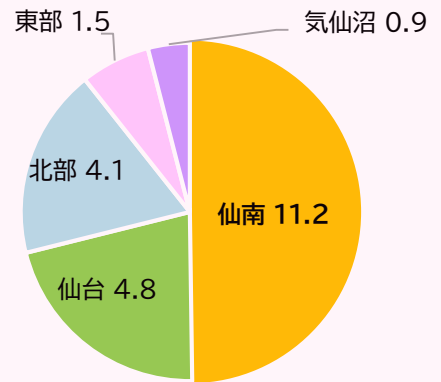


果樹産地の維持・発展に向けた若手果樹生産者を中心としたネットワーク構築

計画年度:令和5~6年度 対象者:管内若手果樹生産者

1 はじめに

仙南地域は、県全体の果樹産出額22億円のうち半数の11億円を占めており、県内において果樹生産が盛んな地域で、果樹栽培を始める後継者(親元就農)や新規参入による就農者が数人おり、今後の産地の維持・発展のため、各々の栽培技術の向上や、若手同士が連携した活動の活発化が重要なものとなっている。



単位:億円

図1.圏域別果樹産出額(R3)

2 課題設定の背景

若手果樹生産者は管内に点在しており、物理的に距離があり孤立しやすい環境にある。

さらに、既存の研修会では、親世代やベテランが多く、若手(子世代)は参加を遠慮する傾向があり、ベテラン生産者の中で自由に発言できる機会が少ない。

また、若手同士でお互いの情報や意見を交換する場がほとんどないため、現状では若手果樹生産者の技術・知識向上に結び付きにくい状況である。



図2.若手果樹生産者の所在地

若手果樹生産者が定期的集まる場を提供する→相互のつながりを形成・強化→知識や技術の向上及び産地を盛り上げていく活動を実施できる担い手として育成

3 目標および活動指標

支援に当たり、活動指標に基づき活動を行った。

研修会の開催:機械操作、栽培時期に合わせた病害虫防除、最先端技術(全自動ロボット草刈り機実演)、剪定。

共同出展を通じた連携活動:販売活動の練習も兼ね対象者複数名で共同出展を行い、各自の交流を行う。

巡回指導・研修会などの誘導:定期的な巡回指導を行い、各自の課題に合わせアドバイス。

打合せ・研修会の開催



巡回指導、研修会などの誘導



連携活動(共同出展)

目標 相互交流により若手果樹生産者の知識及び技術が向上し、連携活動が行われること

4 活動内容・成果

普及センターは、研修会の企画運営、講師、関係機関との調整、生産者の意識醸成等に取り組んだ。研修会を重ねるごとに知識、技術の向上が図られた。また、参加者間の交流が生じ、共同出展活動を行う事で更に深める事ができた。その一方で、同品目栽培者間の交流が多く、全体的な交流までは至らなかった。

○研修会



- ①農業用機械の使い方(6/8) ※会場:生産者園地
- ②農薬と防除暦について(6/30)
- ③病害虫防除とロボット草刈り機について(7/25) ※会場:生産者園地
- ④ぶどうとなしのせん定管理について(12/18)
- ⑤りんごのせん定管理について(1/31) ※会場:生産者園地

○共同出展



大河原合同庁舎を会場としたマルシェへの出展と、市が主催する農業祭へ出展し、規模の異なるイベントでの販売活動を行った。

参加した生産者からは、「若手果樹生産者コーナーとして1つの会計で出展したい」、「思ったよりも売上を上げられたので、次年度も参加したい」といった前向きな感想が聞こえた。

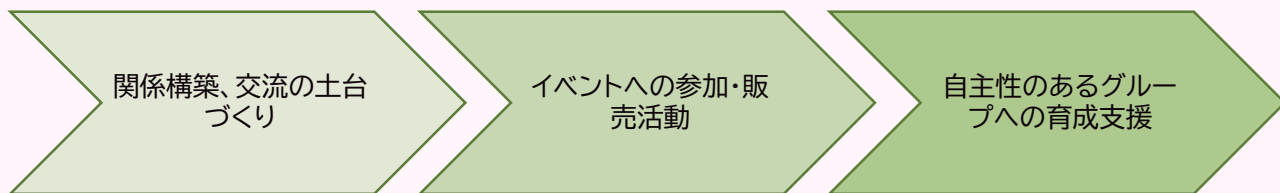
5 今後の活動

- ・樹種共通テーマとなるような研修の企画(病害虫防除、食品衛生法)。
- ・共同出展の他、日頃の自分の経営、作業等や、規格外品の有効利用をテーマとしたワークショップの開催。
- ・自主性を促す運営。

令和5年度

令和5年度末

令和6年度以降



就農希望者の研修先、地域の担い手として活動していける生産者グループ